

に東日本震災と高齢者の2つのキーワードを盛り込んだ。

約350人が参加し、活動発表や8テーマの分科会などを通して、実務・現場に即した実践活動の情報を交換。その上で、「私たちは、今回の協議会を通し、女性建築士として、地域に根付いた活動を行い、次世代を担う子どもたちや生活の礎を築いてこれた高齢者にとって、安全で安



べき普遍的な課題・問題であり、毎年変わるものではない。その意味で、言い方、ニュアンスは変わるが、継続したアピールをし続けることは女性委員会ならではないかと思っている」との考えを示した。

また、今回、大野曜日本女性学習財団理事長の参加を得たことについて「せっかくなっている活動、知識を自分たちだけでなく、社会に発信することが必要だと感じている。今後は、他の団体の方にも上手に発信できれば」とした。

13日の開会式では、衛藤照夫士会連合会副会長が「建築士会にとって本当に大事な実践活動の旗手であるこの協議会が成功裏に終わることを期待している」と述べ、永井委員長が「フェース・ツー・フェースでディスカッションすることの意義は大事だと実感している。お互いに刺激を受けて、各地域に戻ったときの新しい活動につながるよう祈念している」とあいさつした。

震災、高齢者視点に活動

アピール4項目採択

性協
女
合
連
合
会
建
築
士
会

日本建築士会連合会女性委員会は13、14の両日、東京都港区の建築会館で第23回全国女性建築士連絡協議会を開いた。写真は「地域と共生する居住環境づくり―見直

そう、これからの住環境と暮らし方」をテーマに開催。メインテーマは変えずに継続して掲げてきており、今回はサブテーマの「見直そう、これからの住環境と暮らし方」

心で暮らしを提案していきます」などと示した4項目のアピールを採択した。

記者会見した永井香織士会連合会女性委員長は、女性委員会の活動を「高齢者の住宅問題や子どものための住環境、環境に配慮した住まい、まちの歴史や景観と居住環境などの問題に対し、それぞれの地域で、生活者である女性の視点を通して長年にわたる継続的に取り組んできている」と強調。

その上で、アピールの4項目について、「女性委員会が取り組んでいるのは、生活に根付いた、継続的に取り組む

